

旧大国家住宅を公開

和 気

11、12日 江戸の菓子再現も

江戸時代の庄屋の邸宅跡で、国重文の「旧大国家住宅」（和気町尺所）が11、12の両日、一般公開される。江戸時代には要人をもてなした菓子^{マシ}の再現、古文書の解説会といった催し

が予定されている。大国家は江戸時代か

ら明治期にかけて酒造業や吉井川の舟運で財をなした。1760（宝

暦10）年建築の住宅主屋は、上から見ると

「エ」の字形をした「比翼入り母屋造り」と呼ばれる珍しい構造の屋根が特徴。

また、大国家について説明した古文書の解説報告会を両日とも午後1時半から開催。地元^{地元}の染め物グループの作品展示もある。

公開は午前10時から午後4時。主賓が滞在した「御成りの間」や茶室、井戸場などを公開する。

一般公開に先立ち、10日からは、町歴史民俗資料館（同町藤野）で特別展「大国家のおもてなし」を開催。関係文書のほか、藩関係者から拝領した袴、要人宿泊時の部屋割り図などを展示する。

土間では、備前市の和菓子店の協力で喫茶コーナー^{コーナー}を設ける。現在の和気町付近を領有した岡山藩家老・土倉

旧大国家住宅の一般公開、特別展に関する問い合わせは同資料館

氏ら藩の要人に献上した菓子「紅白きんとん」「本目よっかん」を再現し、2種類のセット

（0869②1135）。

11、12日に一般公開される旧大国家住宅



（藤田勝久）